

レギュラトリーサイエンス新技術開発事業

【176（199）百万円】

対策のポイント

安全な農畜水産物の安定供給に資するよう、食品安全、動物衛生、植物防疫に関する施策の決定に必要な科学的根拠を得るための試験研究を実施します。

<背景／課題>

- ・安全な農畜水産物を安定的に供給していくためには、科学的根拠に基づき、国際的な取組を参考としつつ、食品安全、動物衛生、植物防疫に関する施策を推進することが必要です。
- ・「食料・農業・農村基本計画」においても、生産から消費に至るフードチェーン全体にわたって食品の安全性を向上させるための技術開発を推進することとされています。

政策目標

食品中の危害要因、動物疾病及び植物病虫害について、現場において活用可能な危害要因の分析手法やリスク低減技術等を開発し、これら危害要因を未然に防止することによって、食品の安全性の向上及び食料の安定供給を図る。

<主な内容>

早急に行政措置を講じる必要がある食品中の危害要因、動物疾病及び植物病虫害について、レギュラトリーサイエンス（科学的知見と規制や行政措置の橋渡しをする科学）に係る試験研究の推進により、現場において活用できる食品中の危害要因の分析法やリスク低減技術、動物疾病・植物病虫害の検査法やまん延防止技術の開発等を行います。

研究費：1 課題当たり 3, 000 万円以内／年

研究実施期間：原則 3 年以内

（委託費
委託先：民間団体等）

[お問い合わせ先：農林水産技術会議事務局研究推進課

(03-3502-7438)]

レギュラトリーサイエンス新技術開発事業

背景

安全な農畜水産物を安定的に供給していくためには、科学的根拠に基づき、国際的な取組を参考としつつ、食品安全、動物衛生及び植物防疫に関する施策を推進する必要がある。

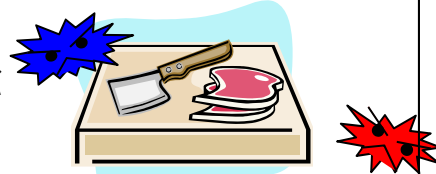
研究内容

早急に行政措置を講じる必要がある食品中の危害要因、動物疾病及び植物病虫害について、レギュラトリーサイエンスに係る試験研究の推進により、現場で活用可能な分析手法やリスク低減技術等を開発。

食品安全

課題例

肉用牛農場における腸管出血性大腸菌及びカンピロバクター低減技術の開発 等



動物衛生

課題例

高病原性鳥インフルエンザの野生動物による感染の確認及び消毒方法の開発 等



植物防疫

課題例

ジャガイモシストセンチュウの根絶を目指した防除技術の開発と防除モデルの策定 等



得られた成果

科学的根拠に基づく行政措置(指針作成等)に活用

成果の例



【ヨーネ病の簡便な検査法】
新たな検査法を開発。関係法令を改正し、確定検査法として追加。検査キットが発売中。



【アクリルアミドの簡易分析法】
機器分析と比べて迅速・簡便な分析方法を開発。キットとして発売され、食品加工等の現場において活用。

安全な農畜水産物及び食料の安定供給に貢献